

# 舗装用ブロックの施工方法

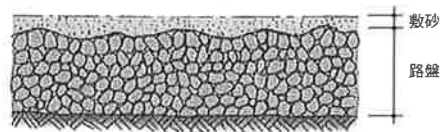
社団法人インターロッキングブロック 舗装技術協会 発行  
「インターロッキングブロック舗装簡易マニュアル」  
から参考、引用

## 1. 路盤の確認

### ■悪い例 デコボコで弱い路盤

インターロッキングブロック(以下ILブロックと称する)敷設後に生ずる不陸の原因(1)

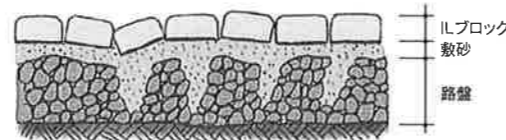
- ①路盤の転圧が不十分。
- ②路盤の凹凸が大きい。
- ③敷砂の厚さが不均一。



### ■悪い例 敷砂が路盤に侵入

不陸の原因(2)

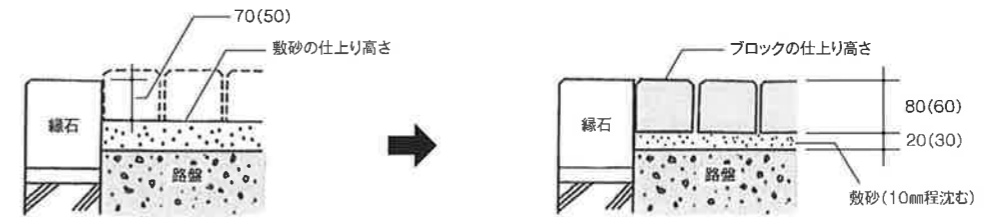
- ①路盤材のクラッシュランに、再生碎石等が使用されている場合。
- ②路盤に隙間ができ、目地から浸透した雨水等により敷砂が路盤に入り込む。



## 3. レベル出し

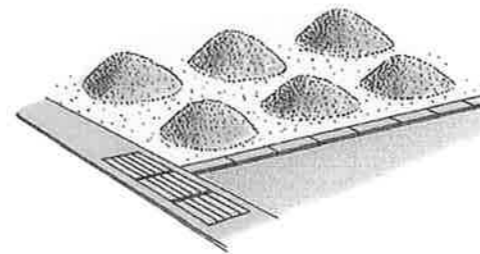
### ■縁石や境界ブロックの天端に合わせる場合

砂の沈み込み代を10mm程見込んで、縁石より70mm(50mm)下がった位置が、敷砂の仕上り高さとなります。

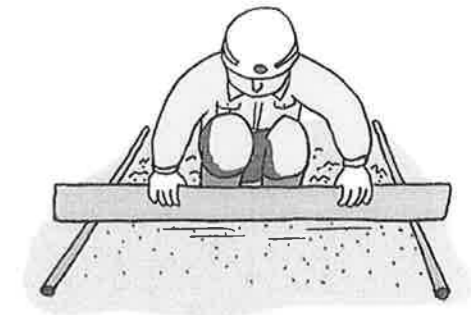


※80mm厚製品の場合。( )内は60mm厚製品の場合です。

## 4. 敷砂の敷き均し

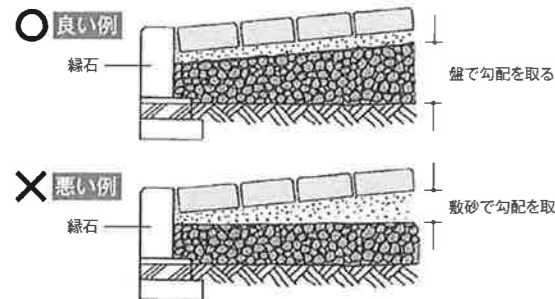


- 敷砂は数箇所に分散、バラ置きします。
- 一箇所に積み置きすると、仕上り後の砂の密度に差が生じ、不陸の原因となります。
- バラ置きした砂を、ひとまず適当な厚さに均します。



- 鉄パイプ類に均し板をあてがうと砂を均等に均しやすくなります。

### ■勾配を設ける場合の施工では



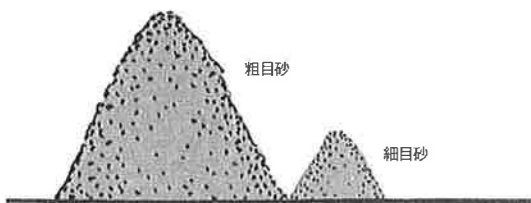
使用開始後 敷砂層の厚さが異なり不陸の原因となります。

### ■各舗装箇所における勾配

種別	勾配
(1)園路、歩行者路	1.5~2.0%
(2)自転車道、広場、駐車場、産業ヤード、バス停	0.5~1.0%
(3)車道、バスベイ	2.0%

## 2. 敷砂、目地砂の品質確認

役割の違う敷砂(粗目砂)と目地砂(細目砂)の確認。



### ■目地砂の品質規格

項目	規格値
最大粒径	2.36mm以下
75μmふるい通過量	10%以下

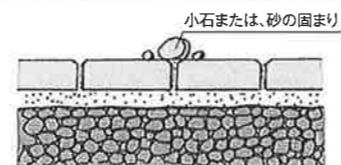
### ■敷砂の品質規格

項目	規格値
最大粒径	4.75mm以下
75μmふるい通過量	5%以下
粗粒率(FM)	1.5~5.5
粗粒化に対する抵抗性 ※歩道・駐車場の場合、適用しなくてよい。	突固め試験(67回突固め)で試験後の75μmふるい通過量増加が1%以下

### ■トラブルの原因となる目地砂

- ①粘土質、泥分が入った砂。
- ②濡れた砂。
- ③固まりのある砂。
- ④小石の入った砂。

→ このような砂を使用すると

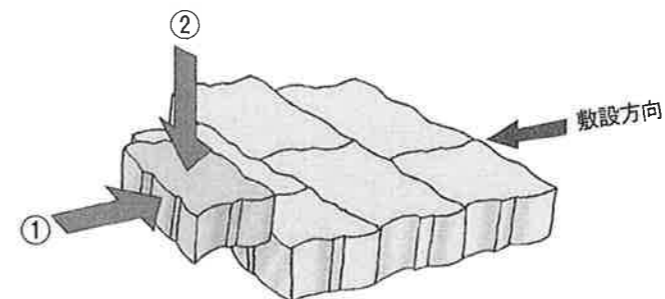


砂の充填不足によりかみあわせ効果が小さくなりトラブルの原因となります。

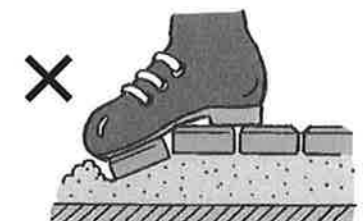
## 5. ブロックの敷設

敷設方法は、押し当てて垂直に下ろして、ブロックを置いていきます。

- ①一旦、強く押し当てる。
- ②垂直に下ろす。



- 注意 最前列のブロックが沈下しないように二列目以降のブロックに乗るようにしましょう。



# 舗装用ブロックの施工方法

## 6. 目地調整



プラスチック製またはゴムハンマーでブロック目地の通りを揃えます。

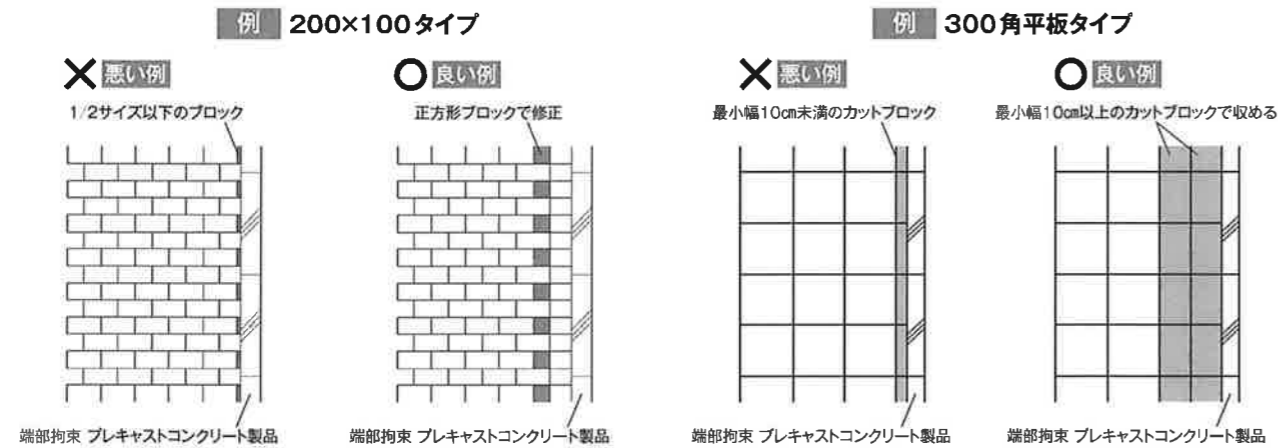


全ブロック敷設後、目地砂を充填する前にボールやマイナスドライバーなどで目地の通りを再調整します。

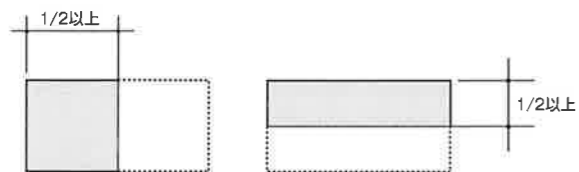
## 7. 端部処理

### ■端部処理の方法

小正方形のブロックをうまく工夫して使用することにより凸凹の発生を防止します。



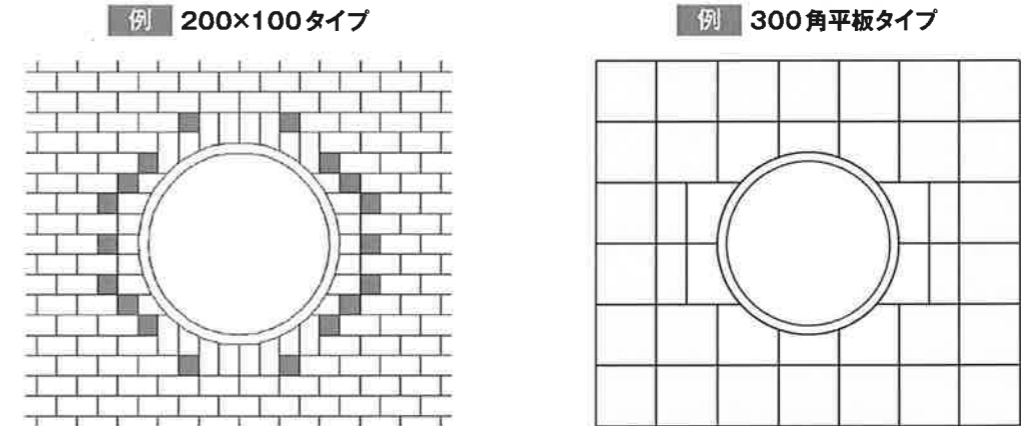
### ■カットブロックの最小寸法



1/2以上のブロックで納まるように割り付け、小さなカットブロックは使用しないようにします。

### ■円形路面施設周りの納まり

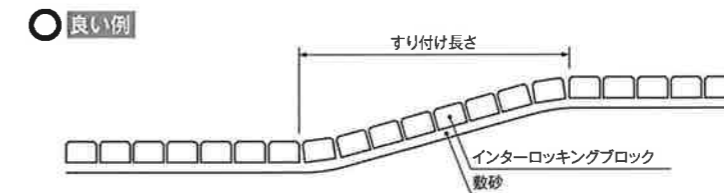
構造物（ハンドホール、マンホール、水道栓、ガードレール）の納まりは、小正方形ブロックを使用するなどして小さなカットブロックを使わないでください。



### ■歩道切り下げ部の納まり

敷砂を緩やかな曲線になるように仕上げ、ブロックを勾配の変化点の手前から徐々に滑らかな曲線になるようにすり付けます。

また、大版サイズのブロックを用いて、切り下げ部分を施工する場合、変化点の目地幅が大きくなるのを防ぐため、ブロックの側面を斜めにカットして納めます。また、目地幅が広がる部分には、小型のILブロックで調整することも可能です。



# 舗装用ブロックの施工方法

## 8. 目地詰め・転圧

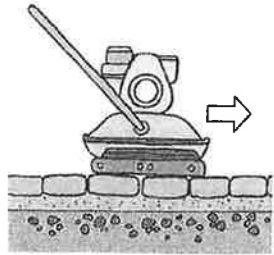
### ■目地詰め

ブロック間の目地部に良く乾燥させた良質な細目砂を掃き込みます。  
ブロックと縁石の間にも掃き込みます。

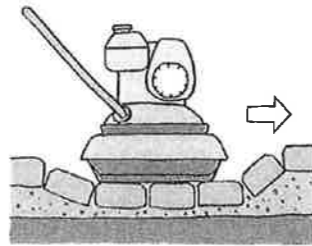


### ■転圧

小型のコンパクターを歩くスピードで転圧します。



一方方向に3回程、繰り返します。



一箇所立ち止まると平坦性が損なわれます。

※コンパクターで転圧できない箇所は、  
ゴム製ハンマーなどでたたいて転圧して  
ください。  
※転圧したのち、再度目地詰めをします。  
※再度コンパクターを使用することで目  
地砂の充填効率をよくできます。

## 9. 交通開放

最後は、路面の清掃や出来形検査を行い交通開放します。



終わりをよければ全てよし！  
折角のよい仕事も、最後の片付けと  
清掃で評価は変わります。  
苦勞を無駄にさせないように、最  
後の点検を十分に行ないます。

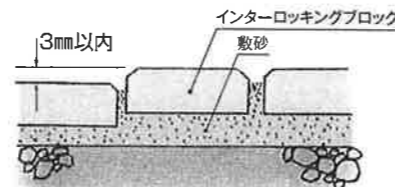
### ■路面の出来形検査項目の例

#### ①目地砂の充填状況



施工完了後、チェックリストで  
確認し、つまり具合がよくない  
場合は、全体に目地砂を再度  
補充します。

#### ②路面の凸凹



## 各種舗装材施工断面図(改訂版)

製品名	歩行者系道路	住宅の乗用車駐車場 (住宅の駐車場など1日数回程度乗用車が 駐・停車する非公共スペースの駐車場)	乗用車主体の駐車場か 最大積載量6.5t未満の 管理用車両の走行する道路
●普通インターロッキングブロック ・マーブルブロック			
●普通インターロッキングブロック ・ベーシックフェイス ・ベーシックフェイスショット ・アートスルー ・スクエア200 ・デラックスショット ・アビアンウェイ(厚80mmのみ) ・ジョイント平板 フラット300			
●普通インターロッキングブロック ・コンクリート平板35・60			
●透水性インターロッキングブロック ・ベーシックフェイス透水 ・ベーシックフェイス透水ショット ・アートスルー透水 ・ジョイント平板 フラット300透水			
●舗装用レンガ ・Pブリックベイバー ・レトロナ			
●舗装用石材 ・ハイデラ・クォーツ乱形/方形 ・リオ・クォーツ乱形 ・ボルフィード乱形 ・ジャワ鉄平乱形 ・ジャイプール・サンドストーン乱形/方形 ・グラニットストーン 板石			
●舗装用石材 ・ジャイプール・サンドストーン ピンコロ ・グラニットストーン ピンコロ45 ・グラニットストーン ピンコロ90 ・メコンキューブ90			
●その他 ・ネオストーン ・アートスリーパーII・ベイブ			

※クラッシュラン(C-40)や再生クラッシュラン(RC-40)を使用する場合には、  
敷砂の路盤への流出を防止するために路盤上に透水シートを使用することを標準とする。

# 視覚障害者誘導用ブロック技術資料

一般財団法人 国土技術研究センター発行  
「改訂版道路の移動等円滑化ガイドライン」(平成20年8月)より抜粋・引用

## 基本的考え方

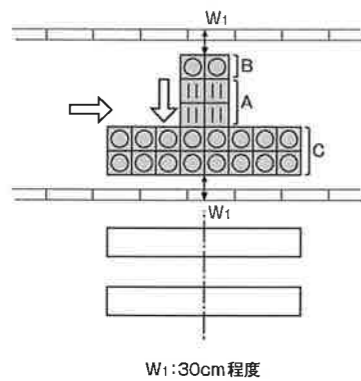
視覚障害者誘導用ブロックは、視覚障害者の利便性の向上を図るために、視覚障害者の歩行上必要な位置に、現地での確認が容易で、しかも覚えやすい方法で設置するものとする。

## 設置の原則

1. 線状ブロックは、視覚障害者に、主に誘導対象施設等の移動方向を案内する場合に用いるものとする。視覚障害者の歩行方向は、誘導対象施設等の方向と線状突起の方向とを平行にすることによって示すものとする。
2. 点状ブロックは、視覚障害者に、主に注意すべき位置や誘導対象施設等の位置を案内する場合に用いるものとする。
3. 視覚障害者の歩行動線を考慮して、最短距離で目的地に辿り着けるよう誘導するために連続的かつ極力直線的に敷設するものとする。
4. 視覚障害者誘導用ブロックは、視覚障害者が視覚障害者誘導用ブロックの設置箇所にはじめて踏み込む時の歩行方向に、原則として約60cmの幅で設置するものとする。また、連続的に案内を行う場合の視覚障害者誘導用ブロックは、歩行方向の直角方向に原則として約30cmの幅で設置するものとする。なお、電柱などの道路占用物等の施設を避けるために急激に屈曲させることのないよう、官民境界にある塀や建物との離隔60cm程度にとられず、占用物件を避けた位置に直線的に敷設することとする。
5. 一連で設置する線状ブロックと点状ブロックとはできるだけ接近させるものとする。
6. 視覚障害者誘導用ブロックは、原則として現場加工しないで正方形のまま設置するものとする。
7. 視覚障害者誘導用ブロックを一連で設置する場合は、原則として同寸法、同材質の視覚障害者誘導用ブロックを使用するものとする。

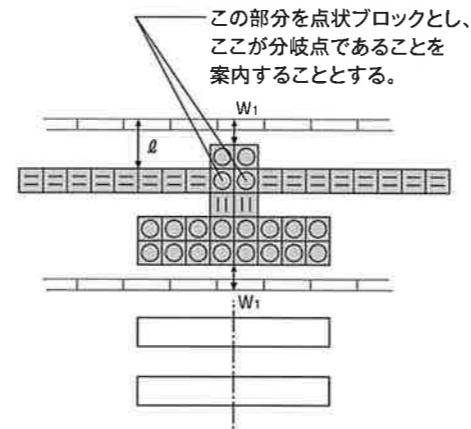
## 視覚障害者誘導用ブロックの設置例

### [横断歩道口の設置例]



- Aの部分の線状ブロックは、視覚障害者を横断歩道に導く、横断歩道上の歩行方向を示す、横断歩道の中心部を示す、という役割を果たしており、設置する範囲は、歩道の幅員に応じて定めるものとする。
- Bの部分の点状ブロックは、対面方向から横断歩道を渡って来た視覚障害者が、Aの部分の線状ブロックに導かれて、官民境界にある塀や建物などに衝突することを防ぐために設置する点状ブロックである。

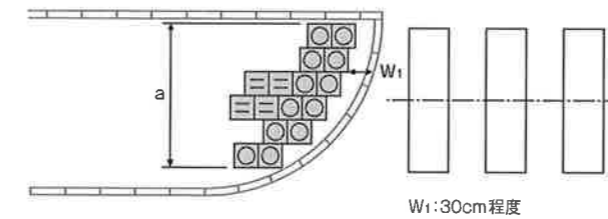
### [継続的直線歩行を案内している場合]



W1: 30cm程度

d: 60cm程度(ただし、路上施設や占用物件の設置状況などによって、この値とすることが適切ではない場合は、この限りではない。)

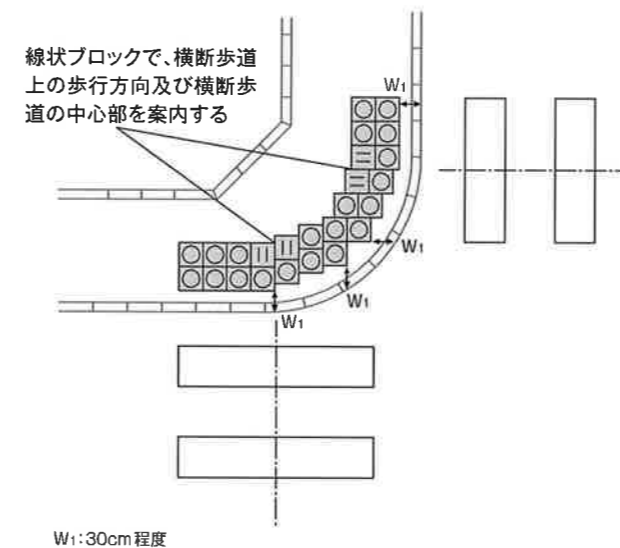
### [歩道巻込部の設置例]



W1: 30cm程度

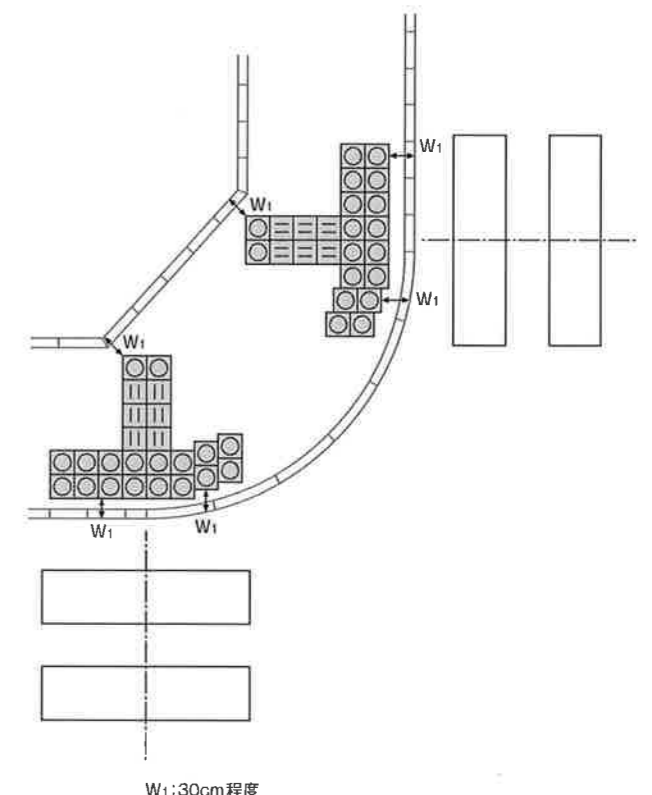
●横断歩道の有無に関わらず歩道巻込部には視覚障害者誘導用ブロックを設置する。

### [横断歩道が近接している場合]



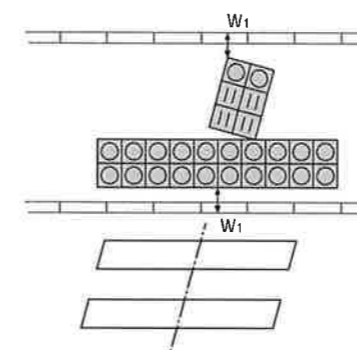
W1: 30cm程度

### [2方向に横断が生じる場合]



W1: 30cm程度

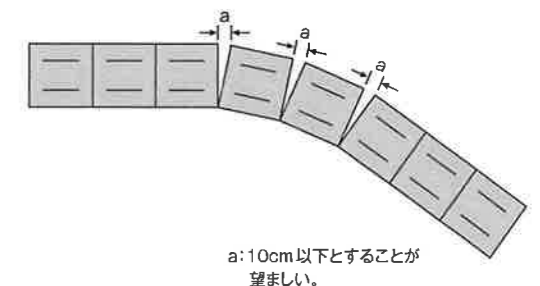
### [やむを得ず横断歩道が斜めの場合の設置例]



W1: 30cm程度

●横断歩道の方向と線状ブロックの線状突起の方向とを同一方向にすることが望ましい。

### [屈折部の設置例]



a: 10cm以下とすることが望ましい。

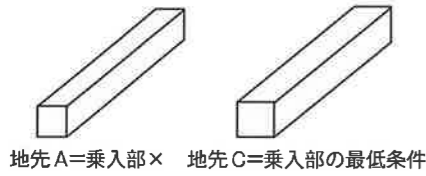
## 舗装用ブロックの留意点

舗装用ブロックの設計で注意すべきは、断面構造だけではなく、つい見逃されがちないくつかの点について、ご紹介いたします。

### ■縁石のサイズ

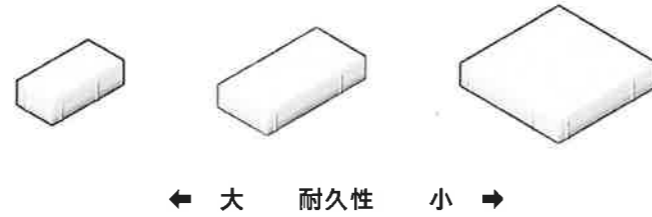
交通量ごとに寸法が定められています。

- 縁石などの端部拘束物は、隣り合うブロックに伝わる水平方向の力を最後に受け止める、重要な役割を担っています。
- 車両乗入部には、最低150×150mmが必要です。



### ■ブロックの選定 適材適所が原則です。

- インターロッキングブロックは、適用箇所の交通量区分に合わせ、形状寸法を選定する必要があります。厚さだけで選択するのは間違いです。
- 一般に大きい製品よりも小さい製品の方が、また側面が直線型の製品よりも波型の製品の方が、広い意味での耐久性に優れています。



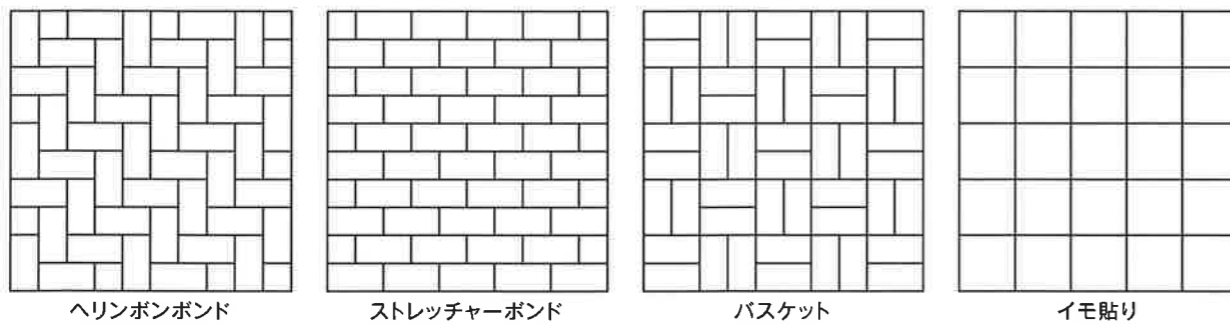
### ■敷砂と目地砂

たかが砂とはあなごれません。

- 敷砂には、ブロックの安定性と平坦性を確保するとともに、荷重を均一に分散し、路盤に伝達する役割があります。目地砂には、ブロックどうしの噛み合わせ効果を発揮させる役割があります。
- いずれも品質規格が定められており、排水性の良い、シルトや泥分の少ない良質なものが必要とされています。

### ■敷設パターン デザインと性能の両立を。

- 敷設パターンによって様々な路面デザインを演出できることは、舗装用ブロックの特長のひとつです。
- ただし敷設パターンにも、耐荷重性の高いものとそうでないものがあります。車両乗り入れ部など、敷設される状況によっては、注意が必要です。



## 舗装用ブロックの品質規格

社団法人インターロッキングブロック舗装技術協会  
「インターロッキングブロック舗装設計施工要領  
(平成19年3月)」より抜粋

種類	項目	車道	歩行者系道路
		駐車場 (大型車主体)	駐車場 (乗用車主体)
普通(非透水性)	寸法(幅、長さ)	±2.5mm以内	
	厚さ	±2.5mm以内	
	曲げ強度	5.0Mpa以上	3.0Mpa以上
	透水性	1.0×10 <sup>-2</sup> cm/sec以上	
透水性	寸法(幅、長さ)	±2.5mm以内	
	厚さ	-1.0~+4.0mm以内	
	曲げ強度	5.0Mpa以上	3.0Mpa以上
	透水性	1.0×10 <sup>-2</sup> cm/sec以上	



福島シービーは、JIPEA(社団法人インターロッキングブロック舗装技術協会)の正会員です。

JIPEAは1983年任意団体として発足し、1996年国土交通省道路局所管の社団法人として認可され、インターロッキングブロック舗装の設計・施工及び供用性に関する調査研究・技術開発及び普及などの事業を展開しています。

※詳しくは当社サイトから、「舗装用ブロックの要点」をダウンロードしてご参照ください。  
(福島シービー(検索)⇒コンテンツ「施工ガイド」⇒「舗装用ブロックの要点」)